

府中市インフラマネジメント計画評価報告書

平成 2 9 年 1 2 月

1 目的

本報告書の目的は、平成25年1月に策定した府中市インフラマネジメント計画（以下、計画という。）の見直しにあたり、計画の進捗状況や実際の効果について、府中市インフラマネジメント計画評価及び改定方針検討協議会の中で確認した内容に基づき、計画の評価を行うことである。

2 総評

市では、計画を策定してからの4年間に、全国的な先進事例である道路等包括管理事業の試行や大径木（街路樹）・公園樹木の間引き、インフラマネジメントシステムの導入などの施策に取り組んでいることがわかる。インフラマネジメントにいち早く着手し、事例のない取組に対して、打開策の検討などを試行錯誤し、実施・評価を行った上で、次に繋げるための方針を掲げるまで推進したことについて評価できる。

今回の評価では、施策を行ったことによる歳入の確保と歳出の削減を合わせると、年間約6,300万円の効果が出ているとの試算結果となっている。これを、計画の施策を行った場合の効果額である年間3億円と比較すると、約21パーセントの進捗となる。しかし、この進捗率は施策を行ったことによる効果額のみを積み上げた数字であり、施策を行う上での初期投資費用などは除外している。これらのことから、計画策定から4年間に計画を基に施策に取り組んでいることは確認できるが、初期投資などを含めるとまだ効果が薄いと言える。

今後は、今までになかった新たな視点からの施策を検討することや、事前に手を加えることで施設の寿命を延ばす予防保全の観点で施策を推進することで、将来の費用を抑える効果が考えられるため、早急に取り組んでいただきたい。なお、こうした取組を進めるためには、市民の理解と協力が不可欠であるため、今後は市民への周知を深める努力が必要である。

府中市では、全国に先駆けて道路、橋りょう、公園、下水道などを対象とした、インフラマネジメントに取り組んだり、取組を推進している。多くの自治体が高度経済成長期にインフラを整備して、老朽化が進行している状況にあるため、府中市の取組が他の自治体に与える影響は大きい。そのため、協議会の意見や、本報告書などを基に改定することで、全国の自治体のモデルケースとなる計画の策定を期待している。

3 取組方針別の評価結果

(1) 歳入の確保

証明手数料適正化を実施しているが、その他に関しては検討した内容が結果に結びついていないため、課題を解決しつつ早急に取り掛かることが必要である。特に、個人からの寄付を含めたスポンサー制度の導入やネーミングライツの導入は、他の事例を参考に導入の可能性を東京都と調整し、可能なことを最大限実施できるよう協議をしていただきたい。

また、歳入を確保することは、直接効果に繋がることから、例えばふるさと納税など、他市の取組事例などを含め検討し、新たな施策を導入していただきたい。

(2) 持続可能な財政運営

平成28年度に、府中市公共施設等総合管理計画を策定し、公共施設（建築物）とインフラの総合的なマネジメントを推進している。持続可能な財政運営という視点を考えると、人口減少や少子高齢化による財政の圧迫を考慮しつつ、さらに視野を拡げて、市全体としてインフラの重要性を認識し、予算配分を見直していただきたい。

(3) 集約化・合同化による効率化

府中市インフラマネジメント白書（以下、白書という。）の試算結果から、維持管理費用が今のままでは不足することが明らかのため、樹木の健全な育成とコストの削減の双方の効果がある樹木の間引き事業は評価できる。しかし、その他のインフラ施設である道路、橋りょう、公園などは、生活への影響があるため容易に廃止することが出来ない。また、都市計画道路や都市公園など、増加ニーズが予測される施設もある。これらのことから、施設廃止の可否の検討、もしくは総量の抑制に努めるために、施設を新設・更新する際には事前協議を行うなどの対策を講じていただきたい。

(4) 業務の見直し等によるコスト削減

道路等包括管理事業やインフラマネジメントシステム導入などの取組を実施している。これまでに例の無い事例に、全国に先駆けて取り組み始めたことは評価できる。

道路等包括管理事業の目的は、コスト削減と市民サービスの向上である。維持管理費用の削減と合わせて、事業開始前と開始後の苦情・要望の件数を比較すると、約4割減少していることから市民サービスも向上していると言える。この取組は、業務の見直し等によるコスト削減の中の複数の検討を行っていることから、重要な事業と考える。そのため、十分な検証の上で、対象区域の拡大や対象業務の見直しを行っていただきたい。

(5) 市民との協働による管理

市政世論調査の結果から、市のインフラマネジメントの取組は、市民に理解されているとは言い難い。インフラ機能を継続的に維持していくためには、市と市民がそれぞれの責任において共に努力すべきである。

そのために市は、インフラを通じて市民が触れ合う機会を創出することで、市民にインフラの現在の水準が確保できなくなると、道路の陥没や橋りょうが落下する危険性があることなど、インフラの重要性を理解していただく必要がある。市民が理解した上で、市はインフラを大切に利用してもらうことや市をサポートする情報提供をもらえるような施策を講じていただきたい。

(6) ライフサイクルを通じた効率化

平成28年度に、街路樹と公園樹木の適切な維持管理計画として、府中市街路樹の管理方針と公園樹木管理計画を策定している。その他の施設についても、安全性を確保した上で、その施設にとって最も効率的な管理手法を検討する必要がある。

今後は、道路の舗装などのインフラ施設の点検結果を基に検討を行い、長寿命化修繕計画を策定することや、道路等包括管理事業の中で対応もしくは受託者からの提案を求めることにより、予防保全の観点から管理を行っていただきたい。

(7) 管理水準の見直し

今の管理水準を改めて確認した上で、市民への安全面での影響がなく、健全なインフラを維持できる範囲で、車道舗装の水準などを積極的に見直していただきたい。

参考資料

次のページ以降に、府中市インフラマネジメント計画評価及び改定方針検討協議会の資料として示された、「府中市インフラマネジメント計画進捗及び評価」を参考資料として掲載する。

府中市インフラマネジメント計画進捗及び評価

凡例

評価の総括	内容
○	想定のとおり進んでいる
△	想定のとおり進んでいない
×	取組が不能になった
未	未着手

達成目標	表示
完了	完了
10年未満	短期
10年以上	長期

府中市インフラマネジメント計画進捗及び評価一覧(歳入)

単位(千円)

大分類	施策名	No.	維持管理施策名	効果額の試算方法											
				① 経過年数	② 導入経費		③ 歳入の増加額						④ 効果額		
					委託費	合計	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	単年度	累計		
管 理 シ ス テ ム	歳 入 の 確 保	1	証明手数料適正化	2	-	-	-	-	-	70	180	125	250	-	-
		2	複写料金適正化	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		3	下水道使用料適正化	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		4	スポンサー制度の導入	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		5	ネーミングライツの導入	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
総計				-	-	-	-	-	-	70	180	125	250	-	-

府中市インフラマネジメント計画進捗及び評価一覧(歳出)

単位(千円)

大分類	施策名	No.	維持管理施策名	① 経過年数	② 実施経費																		③ 効果額						
					平成25年度			平成26年度			平成27年度			平成28年度			累計			単年度			累計						
					委託費	その他	合計	委託費	その他	合計	委託費	その他	合計	委託費	その他	合計	委託費	その他	合計	委託費	その他	合計	委託費	その他	合計				
イ ン フ ラ 管 理 全 体	持 続 可 能 な 集 約 化 ・ 効 率 化 に よ る	6	持続可能な財政運営	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2,592	-	2,592	2,592	-	2,592	-	-	-	-	-	-	-	-
		7	車道・橋りょう	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		8	大径木の間引き(街路樹)	3	-	-	-	7,884	-	7,884	18,274	-	18,274	17,172	-	17,172	43,330	-	43,330	12,393	-	12,393	20,625	-	20,625	-	-	-	-
		9	案内標識	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		10	公園	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
維 持 管 理	業 務 の 見 直 し 等 に よ る コ ス ト 削 減	12	工事時期の調整	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
		13	工事発注回数の削減	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		14	性能規定による発注	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		15	日常の要望事案への対応基準	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		16	道路等包括管理事業	3	2,163	-	2,163	-	-	1,393	-	1,393	866	-	866	4,422	-	4,422	-	-	-	-	10,452	-	10,452	-	-	-	-
		17	インフラマネジメントシステム導入	1	-	-	-	-	-	8,232	-	8,232	7,542	-	7,542	15,774	-	15,774	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		18	不具合の通報制度	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
補 修 更 新	市 民 と の 協 働 に よ る 管 理 の 見 直 し	19	インフラ管理ボランティア制度(府中まちなかきさら)	3	-	-	-	-	805	805	-	870	870	-	1,012	1,012	-	2,687	2,687	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
		20	車道舗装	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4,707	-	4,707	4,707	-	4,707	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
		21	橋りょう	-	-	-	-	-	-	13,468	-	13,468	47,433	-	47,433	60,901	-	60,901	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
		22	街路樹	1	-	-	-	-	-	-	-	-	2,485	-	2,485	2,485	-	2,485	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
		23	公園	1	-	-	-	-	-	-	-	-	24,797	-	24,797	24,797	-	24,797	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
24	下水道	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
25	管理水準の見直し	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
総計				-	2,163	-	2,163	7,884	805	8,689	74,671	870	75,541	152,246	1,012	153,258	236,964	2,687	239,651	56,762	-	56,762	100,153	-	100,153	-	-	-	

効果額単年度による進捗率

効果額(単年度)	56,887	歳入と歳出の合計
人員削減による効果額	6,400	7人(平成22年から平成28年までに管理課・土木課・公園緑地課・下水道課の職員削減数)×約6,400,000円(平成28年度職員の平均給与額)/7年
合計	63,287	
計画の削減見込み額(1年間)	300,000	
進捗率	21.1%	

インフラ管理全体

施策名：歳入の確保

取組名：1 証明手数料の適正化

1 現行計画の背景

インフラ管理に係る本市のサービス料金は、近隣市区と比べて、低い水準である。証明手数料についても同様の状況であるため、基準手数料及び近隣市区を参考に、受益者負担の観点から適正化を図り、料金の改定を行う必要がある。

2 現行計画の目標

窓口対応時の人件費や材料費を考慮し、受益者負担の観点から、料金の適正化を図る。計画策定時は1枚あたり150円の手数料を300円にすることを想定している。

3 現状と課題

平成27年度からは、府中市で発行する証明手数料を250円で統一した。また、窓口セルフサービスシステムを導入した平成28年5月より、1枚あたりの金額だったが、1枚あたりの金額に変更となったため、効果はさらに出ている。よって、平成27年度の適正化以降、課題は発生していない。

4 評価

	金額 (円)		備考
現行計画想定額	64,000/年		—
費用	初期コスト	—	—
	経常コスト	—	—
	累計	—	—
効果	単年度	124,850	{(平成27実績+平成28実績)×100円(値上げ額)}÷2(年数)
	累計	249,700	—
費用対効果	適正化を実施することで、以前の金額との差額である、1枚あたり100円分が歳入の確保に繋がっているため、効果がある。		
評価の総括	○		

5 今後の方向性

今後、料金の適正化を実施する必要がある場合は、府中市全体での見直しや要望等の状況に応じて対応することを想定する。

達成目標	完了
------	----

インフラ管理全体

施策名：歳入の確保

取組名：2 複写料金の適正化

1 現行計画の背景

インフラ管理に係る本市のサービス料金は、サービス料金は近隣市区と比べて、低い水準である。複写料金についても同様の状況であるため、基準手数料及び近隣市区を参考に、受益者負担の観点から適正化を図り、料金の改定を行う必要がある。

2 現行計画の目標

窓口対応時の人件費や材料費を考慮し、受益者負担の観点から、料金の適正化を図る。計画策定時は1枚あたり10円の手数料を100円にすることを想定している。

3 現状と課題

基準手数料及び近隣市区、相武国道事務所、北多摩南部建設事務所等のアンケートを参考に、平成27年度、28年度に検討を行った。都市整備部でセルフサービスシステムを使用しての資料の提供は、管理課のみであるため、管理課単独で条例化することとした。

しかし、複写も証明も資料提供の手順が同じであるのに対し、料金が100円と250円で異なることの説明ができないことから、保留となった。

4 評価

	金額 (円)		備考
現行計画想定額	23,4000/年		—
費用	初期コスト	—	—
	経常コスト	—	—
	累計	—	—
効果	単年度	—	—
	累計	—	—
費用対効果	—		
評価の総括	△		

5 今後の方向性

平成28年度より導入した、管理課窓口のセルフサービスシステムの運用の検討と合わせて、証明と統一化するなどの方法で適正化を検討していく。

達成目標	短期
------	----

インフラ管理全体

施策名：歳入の確保

取組名：3 下水道使用料の適正化

1 現行計画の背景

平成23年に策定した「下水道マスタープラン」において、将来に渡る事業計画を踏まえた現行の使用料収入による財政見通しの結果、汚水処理に係る費用で歳入不足が生じることが想定されていることから、適切に使用料を見直していくことが必要となっている。

2 現行計画の目標

中長期の財政見通しを基に、短期の財政計画による検証を行いながら、汚水処理に係る費用としての使用料の適正化を図っていく。

3 現状と課題

平成28年度・29年度の下水道財政計画では、現行の使用料収入で汚水処理に係る費用の歳入不足は発生していませんが、今後、人口減少や水の使用の減少等による歳入不足となった場合、適切な時期に使用料の適性化を行う必要がある。

4 評価

	金額 (円)	備考
現行計画想定額	266円 / 10m ³ 以下	—
費用	初期コスト	—
	経常コスト	—
	累計	—
効果	単年度	—
	累計	—
費用対効果	—	
評価の総括	△	

5 今後の方向性

短期の財政計画による汚水処理に係る費用を検証しながら、使用料の適性化を行っていく。

達成目標	長期
------	----

インフラ管理全体

施策名：歳入の確保

取組名：4 スポンサー制度の導入

1 現行計画の背景

「街路灯による防犯」や「花壇の維持管理によるまちの美化」など、企業の社会貢献として、スポンサー制度を導入することで得られるインフラの管理に係る歳入を、インフラを維持管理していくための財源に還元する仕組みを検討するために、取り組む必要がある。

2 現行計画の目標

街路灯と花壇の一部（それぞれ100基）に対し、導入の可否を検討する。

3 現状と課題

府中市が募集することでの実施や包括管理事業の受託者と連携しての実施などの手法で検討している。詳細については東京都内の事例を参考に、東京都屋外広告物条例に基づくネーミングライツやスポンサー契約の導入可能性について東京都と調整が必要である。

4 評価

	金額（円）		備考
現行計画想定額	7,000,000／年		—
費用	初期コスト	—	—
	経常コスト	—	—
	累計	—	—
効果	単年度	—	—
	累計	—	—
費用対効果	—		
評価の総括	未		

5 今後の方向性

東京都建設局が実施している公園内の「思い出ベンチ」の事例があるため、施設によっては導入が可能であると考えている。道路・公園等で検討をしていく。また、街路灯に関してはESCO事業により維持管理することになるため、対象としないものとする。

達成目標

短期

インフラ管理全体

施策名：歳入の確保

取組名：5 ネーミングライツの導入

1 現行計画の背景

施設などに名称を付ける、ネーミングライツを導入することで得られるインフラの管理に係る歳入を、インフラを維持管理していくための財源に還元する仕組みを検討するために、取り組む必要がある。

2 現行計画の目標

歩道橋（15橋）と幹線道路の一部（10路線程度）に対し、導入の可否を検討する。

3 現状と課題

府中市が募集することでの実施や包括管理事業の受託者と連携しての実施などの手法で検討している。詳細については東京都内の事例を参考に、東京都屋外広告物条例に基づくネーミングライツやスポンサー契約の導入可能性について東京都と調整が必要である。また、市内の幹線道路は、公募により名称を決めているため変更は難しい。

なお、市としてのネーミングライツ導入に係る基本方針を基に検討を行う。

4 評価

	金額（円）	備考
現行計画想定額	2,400,000／年	—
費用	初期コスト	—
	経常コスト	—
	累計	—
効果	単年度	—
	累計	—
費用対効果	—	
評価の総括	未	

5 今後の方向性

道路・公園等への導入について、東京都と調整し検討をしていく。

達成目標	短期
------	----

インフラ管理全体

施策名：持続可能な財政運営

取組名：6 持続可能な財政運営

1 現行計画の背景

今後のインフラ管理のあり方について、これまでの枠に捉われず、全庁的かつ総合的な視点で方向性を検討する必要がある。

2 現行計画の目標

更新時期にある一時的なインフラ更新費用の増額について、中長期的な財政見通しに反映していく必要がある。そのため、本計画の方針に基づき、具体的なコストや時期などを判明させる。

3 現状と課題

平成28年度に、公共施設等の課題を整理した上で、公共施設マネジメント及びインフラマネジメントに一体的に取り組むため、「府中市公共施設等総合管理計画」を策定した。財政負担の軽減や平準化については、インフラだけではなく公共施設も併せて検討を進めていかなければならない。

4 評価

	金額 (円)		備考
費用	初期コスト	2,592,000	平成28年度委託額
	経常コスト	—	—
	累計	2,592,000	—
効果	単年度	—	—
	累計	—	—
費用対効果	—		
評価の総括	○		

5 今後の方向性

「府中市公共施設等総合管理計画」の目標と基本的な考え方を踏まえ、インフラと公共施設で連携を図り、限られた予算の中で最大限の効果を得られる方策の実施に向けた取組を進める。

達成目標	長期
------	----

インフラ管理全体

施策名：集約化・合同化による効率化

取組名：7 車道・橋りょうの廃止

1 現行計画の背景

道路や公園では、利用度の低い施設等を集約化することにより、管理や運営にかかる経費を集約させる。また施設の更新時には、施設の廃止や簡素化など、施設の集約化と合同化の検討をする。なお、施設の新設が必要の際には、既存施設の廃止などを検討し、総量の増加を抑制する。

2 現行計画の目標

市民、庁内との調整を行い決定する必要があるため、計画の効果としては計上していないが、通学路に該当しない歩道橋などを廃止とすることで補修更新費の削減効果を見込んでいる。

3 現状と課題

都市計画道路や開発道路の整備により、府中市内の道路はこれからも増加する傾向にあるため、取り組むことが困難である。

4 評価

	金額 (円)	備考
現行計画想定額	943,275円/年	—
費用	初期コスト	—
	経常コスト	—
	累計	—
効果	単年度	—
	累計	—
費用対効果	—	
評価の総括	未	

5 今後の方向性

都市基盤施設の集約化・合同化は原則として行わないものと考えているが、橋りょうについては、老朽化に伴って更新しないものは撤去する。

達成目標	長期
------	----

インフラ管理全体

施策名：集約化・合同化による効率化

取組名：8 大径木の間引き（街路樹）

1 現行計画の背景

道路や公園では、利用度の低い施設等を集約化することにより、管理や運営にかかる経費を集約させる。また施設の更新時には、施設の廃止や簡素化など、施設の集約化と合同化の検討をする。なお、施設の新設が必要の際には、既存施設の廃止などを検討し、総量の増加を抑制する。

2 現行計画の目標

市民、庁内との調整を行い決定する必要があるため、計画の効果としては計上していないが、市内の高木（12m以上）の街路樹のうち、1/10程度の間引きを想定することで剪定等維持管理費の削減効果を見込んでいる。

3 現状と課題

平成26年度から現況の道路に対し、市の緑被率と景観に極力影響しない範囲で、過剰な高さや大きさの街路樹の健全な育成のため、間引き（伐採）を行っている。平成26年：23本、平成27年：64本、平成28年度：78本。剪定は3年に1度行うこととする。1本につき、年間75,108円の効果を見込んでいる。

4 評価

	金額（円）		備考
現行計画想定額	13,385,000円/年		—
費用	初期コスト	43,329,600	平成26から28年度の委託額の合計
	経常コスト	—	—
	累計	43,329,600	—
効果	単年度	12,392,820	合計本数×1本あたり効果額
	累計	20,654,700	(23本×3年+64本×2年+78本×1年)×1本あたり効果額
費用対効果	初期コストが大きいいため、効果として現れるには長期間要する。		
評価の総括	○		

5 今後の方向性

健全な育成と費用の削減の双方に繋がるため、今後も引き続き街路樹について伐採を行う。

達成目標	短期
------	----

インフラ管理全体

施策名：集約化・合同化による効率化

取組名：9 案内標識の更新

1 現行計画の背景

道路や公園では、利用度の低い施設等を集約化することにより、管理や運営にかかる経費を集約させる。また施設の更新時には、施設の廃止や簡素化など、施設の集約化と合同化の検討をする。なお、施設の新設が必要の際には、既存施設の廃止などを検討し、総量の増加を抑制する。

2 現行計画の目標

市民、庁内との調整を行い決定する必要があるため、計画の効果としては計上していないが、新デザインの標識（401基）は現状維持として更新の対象にはせず、旧デザインとその他のデザイン標識を更新対象とすることで、補修更新費の削減効果を試算している。

3 現状と課題

現在は、その他の施策に取り組んでいるため集約化・合同化については未実施である。

4 評価

	金額（円）		備考
現行計画想定額	3,508,750円/年		—
費用	初期コスト	—	—
	経常コスト	—	—
	累計	—	—
効果	単年度	—	—
	累計	—	—
費用対効果	—		
評価の総括	未		

5 今後の方向性

都市基盤施設の集約化・合同化は原則として行わないものと考えているが、老朽化に伴って更新しないものは撤去する。

達成目標	長期
------	----

インフラ管理全体

施策名：集約化・合同化による効率化

取組名：10 公園施設の更新

1 現行計画の背景

道路や公園では、利用度の低い施設等を集約化することにより、管理や運営にかかる経費を集約させる。また施設の更新時には、施設の廃止や簡素化など、施設の集約化と合同化の検討をする。なお、施設の新設が必要の際には、既存施設の廃止などを検討し、総量の増加を抑制する。

2 現行計画の目標

市民、庁内との調整を行い決定する必要があるため、計画の効果としては計上していないが、遊具を複合遊具へ更新することで補修更新費の削減効果を試算している。

3 現状と課題

府中市立公園条例において、「都市公園の市民1人当たりの敷地面積の標準は、10㎡以上とする」と記載があることから、公園自体を廃止して面積を減らすことはできないため、公園内の施設において検討が必要である。

4 評価

	金額 (円)		備考
現行計画想定額	268,1200円/年		—
費用	初期コスト	—	—
	経常コスト	—	—
	累計	—	—
効果	単年度	—	—
	累計	—	—
費用対効果	—		
評価の総括	未		

5 今後の方向性

都市基盤施設の集約化・合同化は原則として行わないものと考えているため、その他の施策を実施した後に、検討を行う。

達成目標	長期
------	----

インフラ管理全体

施策名：集約化・合同化による効率化

取組名：11 公園樹木の間引き

1 現行計画の背景

道路や公園では、利用度の低い施設等を集約化することにより、管理や運営にかかる経費を集約させる。また施設の更新時には、施設の廃止や簡素化など、施設の集約化と合同化の検討をする。なお、施設の新設が必要の際には、既存施設の廃止などを検討し、総量の増加を抑制する。

2 現行計画の目標

公園樹木については、計画当初に見込んでいない。

3 現状と課題

平成27年度から公園施設内の緑被率と景観に極力影響しない範囲で、過剰な高さや大きさの樹木の健全な育成のため、間引き（伐採）を行っている。平成27年：436本、平成28年度：347本。1本あたり、年間56,666円の効果を見込んでいる。

4 評価

	金額（円）		備考
費用	初期コスト	77,956,452	平成27年度からの委託額の合計
	経常コスト	—	—
	累計	77,956,452	—
効果	単年度	44,369,478	合計本数×1本あたり効果額
	累計	69,075,854	(436本×2年+347本×1年)×1本あたり効果額
費用対効果	初期コストが大きいため、効果として現れるには長期間要する。		
評価の総括	○		

5 今後の方向性

健全な育成と費用の削減の双方に繋がるため、今後も引き続き公園樹木について伐採を行う。

達成目標	短期
------	----

維持管理

施策名：業務の見直し等によるコスト削減

取組名：1 2 工事時期の調整

1 現行計画の背景

市が行う業務において事務処理方法の見直しや効率化を行う。そのことにより、サービス水準をできるだけ下げず、コストの削減に取り組む。

2 現行計画の目標

1年に3回程度、占用企業を参加者とする工事調整会議を開催する。同じ箇所の道路工事を同時期に発注することで、沿道の住環境への負担を軽減する。

3 現状と課題

現状で、道路調整会議を1年に4回実施している。当初の目標である1年に3回実施することについては達成できている。導入してから効果を確認することとなっているが、試算の条件が課題である。

4 評価

	金額（円）		備考
費用	初期コスト	—	—
	経常コスト	—	—
	累計	—	—
効果	単年度	—	—
	累計	—	—
費用対効果	—		
評価の総括	○		

5 今後の方向性

同時期に占用企業の工事を行うことや舗装工事に併せた占用物件の更新を行うことで、掘り返しを減少させる。

達成目標	完了
------	----

維持管理

施策名：業務の見直し等によるコスト削減

取組名：13 工事発注回数の削減

1 現行計画の背景

市が行う業務において事務処理方法の見直しや効率化を行う。そのことにより、サービス水準をできるだけ下げず、コストの削減に取り組む。

2 現行計画の目標

複数の工事を一括して発注し、工事発注件数を削減することで、職員の事務量を削減する。また、工事諸経費の軽減により委託費用を削減する。

3 現状と課題

平成29年度より、街路樹において低木の剪定と除草を一括して実施することで検討を行う。導入してから効果を確認することとなっているが、職員の事務作業の軽減を計上するほどの効果は見込まない。

4 評価

	金額 (円)		備考
費用	初期コスト	—	—
	経常コスト	—	—
	累計	—	—
効果	単年度	—	—
	累計	—	—
費用対効果	—		
評価の総括	○		

5 今後の方向性

今後も継続して実施していきながら、包括管理委託と合わせて効果の確認をする。

達成目標	短期
------	----

維持管理

施策名：業務の見直し等によるコスト削減

取組名：14 性能規定による発注

1 現行計画の背景

市が行う業務において事務処理方法の見直しや効率化を行う。そのことにより、サービス水準をできるだけ下げず、コストの削減に取り組む。

2 現行計画の目標

工事発注仕様を性能規定に変更することで、企業の工夫や最新技術を活用し、1件あたりの委託費用を削減する。また民間の技術やノウハウを柔軟に活用することで、工期や費用を削減する。

3 現状と課題

平成26年度から実施した、包括管理委託の中で検討を行っている。導入してから効果を確認することとなっているが、試算の条件が課題である。

4 評価

	金額 (円)		備考
費用	初期コスト	—	—
	経常コスト	—	—
	累計	—	—
効果	単年度	—	—
	累計	—	—
費用対効果	—		
評価の総括	○		

5 今後の方向性

今後も継続して実施していきながら、包括管理委託と合わせて効果の確認をする。

達成目標	短期
------	----

維持管理

施策名：業務の見直し等によるコスト削減

取組名：15 日常の要望事案への対応基準

1 現行計画の背景

市では利用者の利便性向上を目的とし、市民からの要望について、出来るだけ対応するように努めてきたが、経費を削減する中では、利用の安全性を確保できない施設を出さないことが重要である。そのため、日常の要望に全て応じるのではなく、「日常の要望事案への対応基準」を設けて対応の可否を判断していく。

2 現行計画の目標

管理課の person 費全体を対象として、1件あたり15分程度の対応時間の短縮を目標とする。

3 現状と課題

平成26年度から実施した、包括管理委託の中に示す要求水準書により検討を行っている。

4 評価

	金額 (円)		備考
現行計画想定額	7,595,000円/年		—
費用	初期コスト	—	—
	経常コスト	—	—
	累計	—	—
効果	単年度	—	—
	累計	—	—
費用対効果	—		
評価の総括	○		

5 今後の方向性

今後も継続して実施していきながら、包括管理委託と合わせて効果の確認をする。

達成目標	短期
------	----

維持管理

施策名：業務の見直し等によるコスト削減

取組名：16 道路等包括管理事業

1 現行計画の背景

市が行う業務において事務処理方法の見直しや効率化を行うものとして、公共的役割が少ない業務について、民間活力を活用することを検討する。具体的には、民間事業者のノウハウを活かすための業務委託や包括的委託などの手法を検討する。

2 現行計画の目標

従前に要していた委託額から、10%の縮減を見込んでいる。また、包括的民間委託の手法により、「市民サービスの向上」と「スケールメリット、民間のノウハウによるコスト削減」を見込む。

3 現状と課題

全国初の取組であり、効果が得られるように慎重に進めている。平成26～28年度に行った試行で、効果が得られたことから事業は有効である。市内事業者の参加推進と作業自体が大きな工事を含んでいないため、予防保全と事後保全による差額の算出が課題と考える。 $135,516,240$ （3年間の従来委託額） $-125,064,000$ （3年間の包括委託額） $=10,452,240$ （効果額）

4 評価

	金額（円）		備考
現行計画想定額	177,334,000円/年		—
費用	初期コスト	4,422,143	平成25年度～平成28年度の委託額
	経常コスト	—	—
	累計	4,422,143	—
効果	単年度	—	—
	累計	10,452,240	従来と包括委託の委託額の差
費用対効果	—		
評価の総括	○		

5 今後の方向性

平成30年度から区域を拡大して、試行的に行う。効果を検証し、将来的には平成33年度から市内全域へ拡大する。「業務の見直し等によるコスト削減」、「ライフサイクルを通じた効率化」の取組みも含めて検証していく。

達成目標	短期
------	----

維持管理

施策名：業務の見直し等によるコスト削減

取組名：17 インフラマネジメントシステム導入

1 現行計画の背景

保存データの活用については、調整が不足している状況であるため、資料の電子化を進めるとともに、市民や事業者への対応に利用できる効率的な電子システムを構築する。

2 現行計画の目標

電子情報化について、位置（地図）により確認できるGIS（地理情報システム）を利用した管理を検討することにより、業務の手順や業務方法の効率化が期待できる。またシステムを導入することによる、「作業時間短縮効果」や「道路管理情報の分析精度向上効果」を見込んでいる。

3 現状と課題

平成28年度から「インフラマネジメントシステム」の運用を開始し、事務の効率化を行っている。管理課にはあわせて「窓口セルフサービスシステム」も導入し、効果がでてきている。しかし、現段階では過去情報のデータ化に時間がかかってしまうため、想定する効果までは至っていない。

4 評価

	金額（円）		備考
現行計画想定額	2,320,000円/年		—
費用	初期コスト	7,548,800	構築費
	経常コスト	4,112,828	2年間の保守、リース委託の平均額
	累計	15,774,456	—
効果	単年度	—	—
	累計	—	—
費用対効果	窓口セルフサービスシステムによる事務の効率化はあるが、想定する効果までは至っていない。		
評価の総括	○		

5 今後の方向性

データの一括管理のため、職員での登録作業をマニュアル化することで推進する。

達成目標	短期
------	----

維持管理

施策名：市民との協働による管理

取組名：18 不具合の通報制度

1 現行計画の背景

職員による日常の道路パトロールに加え、事前に登録をした市民や組織に、道路や公園の施設などの異常や不具合などを通報してもらう制度である。講習会での説明等を通じ、登録者における施設の状態や通報手段などの理解を事前に深めることを想定している。

2 現行計画の目標

不具合などの情報を提供してもらう制度を検討・導入することで、道路などのパトロール費の削減や、予防保全の実施を行っていく。また、市民との協働を推進する。

3 現状と課題

インフラ管理ボランティア制度（府中まちなかきらら）で通報制度を検証している。市の管理に加えて維持管理作業を行っているため、防犯対策や維持管理水準の向上に繋がっている。

4 評価

	金額（円）		備考
現行計画想定額	2,897,000円／年		—
費用	初期コスト	—	—
	経常コスト	—	—
	累計	—	—
効果	単年度	—	—
	累計	—	—
費用対効果	—		
評価の総括	○		

5 今後の方向性

インフラ管理ボランティア制度（府中まちなかきらら）で検証していく。

達成目標	短期
------	----

維持管理

施策名：市民との協働による管理

取組名：19 インフラ管理ボランティア制度（府中まちなかきらら）

1 現行計画の背景

導入に伴う清掃道具の購入や傷害保険料などの「経費」と、導入されることにより削減される「行政コスト」のバランスを検討する。その検討から、市民による地域の美化活動への参加推進を目的とし、アドプト活動と通報制度を組み合わせるなどの独自の方法を計画する。また、アドプト制度の導入方法を検討し、市民との協働を推進する。

2 現行計画の目標

道路清掃費用および公園清掃費用の5%程度のコスト削減を想定する。

3 現状と課題

平成26年度からボランティア制度を運用し、平成28年度末時点で長期登録団体数は26団体である。市の管理に加えて維持管理作業を行っているため、防犯対策や維持管理水準の向上に繋がっている。公園等清掃業務委託で清掃活動していただいている団体が、委託からボランティアに移行することで、委託額の削減を見込んでいた。説明会を行ったが、承諾を得られず、効果額に繋がっていない。ボランティア26団体による清掃費用の減額分を算出していない。

4 評価

	金額（円）		備考
現行計画想定額	9,018,000円/年		—
費用	初期コスト	578,073	—
	経常コスト	703,019	3年間の運用費用の平均額
	累計	2,687,130	—
効果	単年度	—	—
	累計	—	—
費用対効果	—		
評価の総括	○		

5 今後の方向性

イベントなどで制度の周知を行うことで理解をしていただき、市民の意識を変化させることで、登録団体数を増加させるよう努める。

達成目標	長期
------	----

補修更新

施策名：ライフサイクルを通じた効率化

取組名：20 車道舗装

1 現行計画の背景

インフラのライフサイクルコストを低減させるため、施設の修繕や更新の計画を策定する際には、時期や整備内容等について最も適した方法を導入する。

2 現行計画の目標

車道舗装の補修更新計画では、従来の補修間隔、補修サイクル、補修工法を見直すことで、補修間隔の長期化、補修サイクルの設定、経費が少ない補修工法にシフトする。具体的には、幹線市道と一般市道を分類して打換え、オーバーレイによる補修時期を適正に判断していく。

3 現状と課題

平成28年度に2回目の路面性状調査を行った。平成23年度と比較すると、安全性に問題はないが、若干の劣化が見受けられた。今後は現在の水準を維持するために、最も効率的な補修計画を策定することが課題となる。また、歩道舗装についても方向性を検討する。

4 評価

	金額 (円)		備考
費用	初期コスト	4,707,000	平成28年度路面性状調査費用
	経常コスト	—	—
	累計	4,707,000	—
効果	単年度	—	—
	累計	—	—
費用対効果	—		
評価の総括	○		

5 今後の方向性

過去2回の路面性状調査を基に、平成29年度に舗装の維持管理計画の方針を検討する。一般市道でも場所によっては、交通量が多い市道も見られるので、交通量を基に分類する必要がある。

達成目標	短期
------	----

補修更新

施策名：ライフサイクルを通じた効率化

取組名：21 橋りょう

1 現行計画の背景

インフラのライフサイクルコストを低減させるため、施設の修繕や更新の計画を策定する際には、時期や整備内容等について最も適した方法を導入する。

2 現行計画の目標

予防保全を導入する場合の削減効果を確認する。特に橋長15m未満の道路橋と歩道橋を、予防保全により維持することで大きな削減効果が見込めると考えている。

3 現状と課題

平成27、28年度で5年に1回の法定点検を行った。この点検結果を基に、橋りょうの長寿命化修繕計画策定していく。また、専門性のある委託業者による点検となるため、委託費が多額となることや、老朽化対策の点検は、耐震の診断とは異なるため、耐震対策については補修する際に設計をし直すなどの対応が必要であることが課題である。

4 評価

	金額 (円)		備考
費用	初期コスト	60,901,095	平成27、28年度橋りょう点検費用
	経常コスト	—	—
	累計	60,901,095	—
効果	単年度	—	—
	累計	—	—
費用対効果	—		
評価の総括	○		

5 今後の方向性

早期に措置を講ずべき橋りょうは平成27、28年度の点検では、15橋（道路橋5、歩道橋10）であり、次回点検までに修繕、塗装などの対応を行う必要があるが、橋りょうの長寿命化修繕計画を平成29年度に策定することで、府中市全体の橋りょうの中での優先度や個別の橋ごとの修繕計画を立て、対応を進めていく。

達成目標	短期
------	----

補修更新

施策名：ライフサイクルを通じた効率化

取組名：22 街路樹

1 現行計画の背景

インフラのライフサイクルコストを低減させるため、施設の修繕や更新の計画を策定する際には、時期や整備内容等について最も適した方法を導入する。

2 現行計画の目標

街路樹は、緑が多い市の特徴を表現する重要なインフラである。しかし、高くなりすぎた「高木」や、枝が大きく張った「大木」を道路施設の一部として管理することは、大きな財政的な負担になる。そのため、市の緑被率と景観に極力影響しない範囲で、過剰な高さや大きさの街路樹を整理することとして試算する。

3 現状と課題

平成28年度に街路樹の健全な維持管理のため、「府中市街路樹の管理方針」を策定している。課題には、大径木化した街路樹による樹木の育成の悪化、歩道の幅員への影響、管理費の増大、低木の巨木化による交差点などの視認性の悪化、街路樹の成長に伴う根上がりの対応、沿道住民の高齢化に伴い、清掃活動ができなくなったため、樹木の育成状況を見逃した剪定の要望などがある。

4 評価

	金額 (円)		備考
費用	初期コスト	2,485,223	平成28年度委託費用
	経常コスト	—	—
	累計	2,485,223	—
効果	単年度	—	—
	累計	—	—
費用対効果	—		
評価の総括	○		

5 今後の方向性

課題を解決するため、「府中市街路樹管理方針」を基に維持管理を実施し、効果を検証していく。

達成目標	短期
------	----

補修更新

施策名：ライフサイクルを通じた効率化

取組名：23 公園

1 現行計画の背景

インフラのライフサイクルコストを低減させるため、施設の修繕や更新の計画を策定する際には、時期や整備内容等について最も適した方法を導入する。

2 現行計画の目標

「公園樹木管理計画」に基づく植栽管理を実施することや健康遊具設置の要望が増加すると見込まれる地区の遊具を健康遊具に更新すること、機能を維持しながら更新経費を削減する。

3 現状と課題

平成28年度より、公園施設の長寿命化計画を4年計画で策定しているところである。

4 評価

	金額 (円)		備考
費用	初期コスト	24,796,800	平成28年度策定委託額 (策定は継続中)
	経常コスト	—	—
	累計	24,796,800	—
効果	単年度	—	—
	累計	—	—
費用対効果	—		
評価の総括	○		

5 今後の方向性

公園施設の長寿命化計画を策定することで、予防保全による管理を図る。

達成目標	短期
------	----

補修更新

施策名：ライフサイクルを通じた効率化

取組名：24 下水道

1 現行計画の背景

標準耐用年数を迎える下水道管きよが増大し補修更新費用が大きくなるものと予想されるため、ライフサイクルコストを考慮し、補修・更新の時期や優先度等、最も適した方法を導入する。

2 現行計画の目標

下水道施設の修繕や更新など老朽化対策については、適切な工法と優先度を判断しながら、コスト縮減と事業の平準化、事故等防止につなげる。

3 現状と課題

標準耐用年数を迎える下水道管きよが増大し、老朽化対策に係る補修更新費用も急激に増加することとなるため、長寿命化計画を策定する等、老朽化対策事業等を効率的に行っていく必要がある。

4 評価

	金額 (円)		備考
費用	初期コスト	—	—
	経常コスト	—	—
	累計	—	—
効果	単年度	—	—
	累計	—	—
費用対効果	—		
評価の総括	—		

5 今後の方向性

下水道施設の修繕・更新等の老朽化対策等を効率的に行っていく。

達成目標	長期
------	----

補修更新

施策名：管理水準の見直し

取組名：25 管理水準の見直し

1 現行計画の背景

インフラの管理水準については、原則現状の水準を維持している。しかし、本計画の取組みを最大限行っても、今後のインフラ管理の経費が足りない場合が想定されるため、その場合には、現状の管理水準の見直しを行っていくか検討する。

2 現行計画の目標

施策を最大限行っても費用が足りない場合に、検討を行う。

3 現状と課題

現段階では、実施する予定はない。

4 評価

	金額 (円)		備考
費用	初期コスト	—	—
	経常コスト	—	—
	累計	—	—
効果	単年度	—	—
	累計	—	—
費用対効果	—		
評価の総括	未		

5 今後の方向性

施策を最大限行っても費用が足りない場合に、検討を行う。

達成目標	長期
------	----

府中市インフラマネジメント計画評価

及び改定方針検討協議会

会長 根本祐二 委員 金子雄一郎 委員 谷垣岳人

委員 谷本三郎 委員 土方康志